

■室蘭工業大（2020年リーグBブロック3位）

小雨交じりの空模様となった8月23日の室蘭。市内水元町の室蘭工業大のグラウンドでアメフト部の練習が始まった。帰省休み明けの最初の練習とあって、集まった部員は原田耕太主将（4年、北見北斗高）ら選手5人、スタッフ2人だけだったが、大学が規定する制限時間の2時間いっぱい、基礎練習を中心に黙々と体を動かした。

昨年のシーズンは、大学のコロナウイルス対策のために練習開始が遅れたうえ、胆振管外への遠征も禁止された室蘭工業大。1部リーグBブロックの2試合とも棄権に追い込まれ、戦わずしてシーズンを終えた。2年分の思いをぶつける今年。編入生の3年生2人、4人の新入生など8人の新戦力が加わり選手17人、スタッフ6人でスタートを切った。2回目の緊急事態宣言が明けた6月23日から週4回の全体練習を再開した。毎年5月に行う帯広畜産大との定期戦は緊急事態宣言下のため中止。6月に釧路公立大と予定したオープン戦も、会場の帯広畜産大グラウンドが使えずに中止になった。実戦不足を補うために、みっちり練習を重ねてきた。

23日の練習は基礎の仕上げが中心で、30日から始まる実戦的練習への足場固めだ。「人数は少ないけれど元気を出していこう」と原田主将が檄を飛ばし、ランニングから始まった。全員がスクリーメージラインに並んでスタートのタイミング合わせを行い、交代でブロックの練習も行った。ポジション別練習では、OLの原田主将とRB川上竜輝（4年、士別翔雲高）が新人たちに手取り足取りの指導に励んだ。1年生QBと組んだ川上はハンドオフの練習で「ボールの入れ方が浅い」「今度はOK」と、一回ごとに声かけ。2人の新人OL

と組んだ原田主将はパスプロテクションのポイントを熱心に伝えた。

再び全員で守備練習。LBも務める川上がOLのブロックを外してタックルに向かう動きを繰り返した。最後にOLの3人がロングスナップの練習を行い、この日のメニューを終了。原田主将は「あと3週間で初戦。頑張っていきましょう」と呼びかけた。

原田主将は「新戦力はラグビー経験者が多く、当たりの基礎ができていますので即戦力」と期待を込め、「去年は久しぶりの1部復帰だったが、試合ができずに残念だった。今年は2年分の思いを込めて1部リーグに挑戦したい」と決意していた。

8月27日、北海道に3度目の緊急事態宣言が発令された。前日の26日、室蘭工業大は「行動指針」を27日からレベル2に引き上げると発表し、課外活動が全面禁止になった。アメフト部の原田主将は「オンラインで筋力トレーニング、リモートで勉強会を行ってチーム力を維持する」と力を込めた。



スタートのタイミングを合わせる室蘭工業大アメフト部の選手たち